

ナレンドラ・モディ首相来日歓迎 日本とインドのさらなる パートナーシップを願って

8月30日、インドの新首相ナレンドラ・モディ氏が来日し、9月1日には安倍晋三首相との首脳会談も行われました。モディ氏が率いるインド人民党は5月に行われた総選挙で単独過半数を超える議席を獲得し、新政権を発足。インドに成長の勢いを取り戻す目標を掲げた経済政策は、世界から注目されています。首相としての初来日が実現し、これまで築いてきた日本とインドとの友好関係はさらに深まり、互いに新しい発展へ向かうことが期待されています。



インド大統領
プラナーブ・ムカジー
Pranab Mukherjee



インド首相
ナレンドラ・モディ
Narendra Modi

駐日インド大使

デーパ・ゴパラン・ワドワ

Deepa Gopalan Wadhwa



2014年8月30日から9月3日にかけて、ナレンドラ・モディ インド首相が来日されています。この歴史的な機会に寄稿できることを嬉しく思います。印日両国は、年次首脳会談を維持する独自の関係を持っていますが、今回の首脳会談は、ナレンドラ・モディ氏のインド首相としての初来日であることから、特別な期待が高まっています。

昨年、印日関係は史上かつてなかった高みに到達しました。2013年11月～12月には天皇后陛下が訪印なさり、その直後の1月26日には、安倍晋三首相がインド共和国記念日祝典に主賓として出席なさいました。そして今、モディ首相が来日しております。07年、12年に実りの多い日本訪問を遂行され、日本の友人として知られているモディ首相は、来日を前に、ツイッターにこのような投稿をなさいました。「州首相として日本を訪問したが、大変温かな思い出がある。もてなしの心、幅広い協力の可能性に深い印象を受けた」。モディ首相が日本を南アジア地域外の初の二国間外交の訪問先として選んだのは、自然の流れと言えるでしょう。

インドと日本を結ぶ文化的・文明的な絆は、両国間の緊密な関係の基盤となっていますが、今日この絆は民主主義、個人の自由、法の支配に対する信念といった共通する価値観に基

づいたパートナーシップへと進化しました。印日戦略的グローバル・パートナーシップは、融合する世界観と、両国の経済における自明の補完性に基づいています。

印日関係は、年次首脳会談の他にも、外交、防衛、経済担当関係間の年次会談などで構成される、複層的な対話の枠組みによって支えられています。両国の担当閣僚は、年次会談を通じて二国間関係の進捗状況を振り返り、関係を深化させるために新たに方向を設定します。こういった集中的な会談の結果は、数多くの実績となって表れています。経済関係においては、日本企業のインドへの投資は、貨物専用鉄道西回廊、デリー・ムンバイ産業大動脈、チェンナイ・バンガロール産業大動脈といった巨大インフラ・プロジェクトに牽引され、5倍の伸びとなりました。これらのインフラ・プロジェクトは、インドの社会的・経済的様相をがらりと変貌させる可能性を持っています。

外相間の戦略対話は、両国が互いの外交政策の優先事項と安全保障に関する見解についてよりよく理解するための一助となっており、防衛相間の戦略対話は、インドの海軍と日本の海上自衛隊との共同演習や米国との3カ国演習への参加などとなって結実し、シーレーンの安全保障に資してい

ます。シーレーンの安全は、両国国民の繁栄や、発展と成長のための平和的な環境のためにも不可欠です。

インドでは、世界で最大規模の民主主義の実践となった選挙の後に生まれたモディ新政権が、国の社会的・経済的成長のため野心的な政策を打ち立てました。インフラ、製造業、輸出主導型産業、系統的な水管理、スマート都市など、首相が特定した優先分野の多くは、日本が専門知識や技術を持つ分野です。日本は、インドが成長目標を達成するために力を与えてくれる必然的なパートナーなのです。今回、首相は強力な企業代表団を率いて来日なさいましたが、この事は、印日パートナーシップへの高い期待を現実に変えたいという私たちの願いを顕著に表しています。

印日両国において政府が大いに力を発揮し、両国の首相が個人的な友好関係にある今、私たちは、首脳会談を経て、印日関係のさらなる強化、新たなレベルへの上昇につながると心から楽観しています。首相が8月27日、ツイッターへ投稿なさった次の言葉が私たちの気持ちを言い表しています。

「私は特に、安倍晋三首相にお会いするのを心待ちにしている。私は安倍首相のリーダーシップを深く尊敬し、これまでの面会を通じて彼との温かな関係を楽しんでいる」

「日本のインドとの友情は時の試練を経て、今なお続いている。われわれ二国は、世界の平和と繁栄の推進に傾倒する、活気ある民主主義国家である」

在日インド商工協会
理事長

比良竜虎

Ryuko Hira



5億5千万人という大きな信任を得た時、モディ氏は「インドは勝利した」「これはインドの勝利である」と語りました。5億5千万人のハートをつかんだモディ氏の魅力は、彼の精神、信念、数々の奮闘努力、幼子のような勇敢さ、青年時代に苦行者になろうとした大胆な冒険、ヒマラヤ山中での真理の探究、生まれ育ったワダナガル村で魂を揺さぶるドラマ「ピーラ プール」と「シヴァジ」の脚本を書き自ら演じて高貴な理想の英雄となったこと、などです。

2003年、グジャラート州首相として、モディ氏はインド国内の単独の州で初めて、「活気あるグジャラート世界投資家経済サミット」を計画しました。モディ氏は、官僚的障壁を撤廃するために、閣僚、議会、行政局を説得し、その協力を得ることに成功しました。そして、インド国内外からの投資家たちを説得し、納得させ、疑念を取り除くために、昼夜を問わず精神的に働くという、実際的かつ実質的な取り組みを行った

のです。

潮流は変わり、モディ氏の高潔で誠実な人格、そして純粋な思いによる約束の遂行は大きく報われました。不可能が可能となったのです。モディ氏は、他州ではいまだに実現できていない、低価格での電力供給インフラを整え、さらに、道路、海港、空港を建設し、民間セクター主導による産業の育成を行いました。2年ごとに開催される「活気あるグジャラート」は、インドにおける最良のビジネスチャンスの得られる場の象徴となりました。13年のサミットに正式参加した国は121を数えます。モディ氏は、参加者一人ひとりをグジャラートの大使として位置づけ、信頼関係の構築と快適なビジネス環境の提供によって、グジャラートに世界から主要な産業・企業を誘致しました。

日本は、13年の「活気あるグジャラートサミット」に政府高官が参加し、サミットの公式パートナー国家となりました。今ではスズキ株式会社をはじめとする日本の主要企業が工場建設を始めています。全世界がモディ氏の経済パートナーとなることを望んでいる状況の中、彼は日本の希望を尊重して、外遊先として日本を選びました。これは、日印経

済パートナーシップの大きい潜在性の表れです。インドは、日本の経済成長にとって不可欠の存在です。モディ氏こそは日本経済に強く望まれる起動力をもたらすことのできる人物です。

モディ氏は日本の友です。中国はモディ氏の友です。友達の友達は友達です。モディ氏には、アジアと世界の平和と繁栄に寄与するため、インド、日本、中国、韓国の間には友好関係を育ていける可能性が大きいにあります。モディ氏は21世紀を、思い描いた夢を実現させる英知と知識の世紀と呼んでいます。その21世紀の運命を決めるマイルストーンとして、世界はモディ氏の勝利を歓迎しました。

在日インド人たちは、インドで最も愛されているナレンドラ・モディ首相とその代表団を心より歓迎いたします。モディ首相閣下の真実と純粋さに満ちた生き方が、日本人々々を励まし、よい影響をもたらしますように。モディ首相閣下の日本訪問が成功し、日印両国の人々に健康と幸福に満ちた繁栄をもたらしますように。日本はモディ首相閣下を歓迎します。そしてまたこの場をお借りして、来る9月17日の誕生日のお祝い申し上げます。

インドの今

インドは日本の約9倍の国土面積を持つ、多言語、多民族の国家です。やがて総人口が中国を抜き、2025年には世界最大の14億6千万人に達するとされています。しかも若い層が多く、市場としても国際競争力の面でも魅力的な人口構造です。今年モディ首相の人民党が支持さ

れたのは、停滞したGDP成長率を以前の7～8%まで復活させる手腕に国民の大きな期待が集まっていることを示しています。新政権が目指すのは経済成長速度の回復、インフレの沈静化、財政均衡、雇用の拡大です。モディ政権は、製造業での安定した雇用を確保するため、既存の産業政策、たとえば製造業の大規模集積地区の設置、政府による土地取得の推進、電力などのイ

ンフラ整備の推進に加え、産業分野での新たな外貨規制緩和を打ち出しました。日本企業にとって、より進出しやすい環境をつくることを目指しています。

土地収用法、労働法、税法など、成長の妨げになっていた法規制の改正も検討されており、インドは着実に前進の一步を踏み出しています。

協力：財団法人 インド経済研究所
北村順一さん

「人生は旅」 いい旅、いい宿、出会いの始まり



全国26都道府県で7つのブランドに年間500万人の宿泊客から支持を得ています



ホテルマネジメントインターナショナル株式会社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-1-18 www.hmi-hotel.co.jp



公益社団法人 在日インド商工協会
THE INDIAN COMMERCE AND
INDUSTRY ASSOCIATION JAPAN
www.icij.jp

■株式会社 アサヒトラベルサービス
www.ats-tokyo.com/

■アンビカ トレーディング株式会社
www.ambikajapan.com

■インディアインターナショナルスクール
ジャパン
www.iisjapan.com

■インド料理レストラン ムンバイ グループ
www.mumbai.co.jp

■インフォシスリミテッド
www.infosys.com/jp/

■札幌インド料理レストランタージ・マハールグループ
www.tajmahalgroup.com

■株式会社 ジャパンオーバーシーズコーポレーション
インドビザ申請センター 日本
www.indianvisaattjapan.co.jp

■シャンティ紅茶
www.shanti-jbs.com

■株式会社 ジュピターインターナショナル
コーポレーション
www.jupiter-int.co.jp/jpn/profile.html

■株式会社 セイナン
www.seinangroup.com

■太陽ASG有限責任監査法人
www.gtjapan.or.jp

■TMI総合法律事務所
www.tmi.gr.jp

■有限責任監査法人 トーマツ
www.tohmatsu.com

■日本インフォビューテクノロジー株式会社
www.ivtlinfview.co.jp

■日本タタコンサルタンシーサービシズ
株式会社
www.tcs.com/jp

■株式会社 バイシャリ トラベルズ ジャパン
www.vaishalitravels.com

■バンク・オブ・インド 東京支店
www.bankofindia.com

■ラーセン&トップロ
www.larsentoubro.com